

令和5年11月30日（木）

ありがとう

今回は笹田雪絵（さきだゆきえ）さんの詩をご紹介します。

この目が物をうつさなくなったら目に、
そしてこの足が動かなくなったら、
足に「ありがとう」って言おうって決めているの。
今まで見えにくい目が一生懸命見よう、見ようとしてくれて、
私を喜ばせてくれたんだもん。
いっぱいいろいろな物、素敵なお物見せてくれた。
夜の道も暗いのにがんばってくれた。
足もそう。私のために信じられないほど歩いてくれた。
一緒にいっぱいいろいろなところへ行った。
私を一日でも長く、喜ばせようとして
目も足もがんばってくれた。
なのに、見えなくなったり、歩けなくなったり
「なんでよー」なんて言っただけはあんまりだと思っただけ。
今まで弱い弱い目、足がどれだけ私を強く強くしてくれたか。
だからちゃんと「ありがとう」って言うの。
大好きな目、足だからこんなに弱いけど大好きだから
「ありがとう。もういいよ。休もうね」って言ってあげるの。
多分誰よりもうーんと疲れていると思うので…。

作者の雪絵さんは、中学2年生の時に手足が突然動かなくなる神経性の難病である多発性硬化症にかかりました。雪絵さんは、その難病さえも丸ごと愛して、強く生きぬいた少女です。しかし、病魔には勝てず2003年12月26日に亡くなりました。

自分の人生を受け入れることを口にするのは簡単です。しかし、不自由なことを含めすべてを受け入れて、丸ごと愛して生き抜いた雪絵さんに学ぶべき点は多いと思います。